令和2年度　学校評価票（保護者）まとめ一覧表（21/23名）　回収率91．3%

		質問内容	A	B	C	D	A＋B	C＋D
行きたい学校	1	学校は、児童生徒一人一人の見え方の状態や障がいの特性に配慮し、興味関心を持たせ、進路実現に必要な確かな学力向上のための支援をしていますか。	76%	24%			100%	0%
	2	学校は、視覚障がい教育の専門性と少人数を生かした個別指導を充実させ、各種大会やコンクールにも積極的に参加するなど児童生徒の自立と社会参加に向けた取組をしていますか。	55%	40%	5%		95%	5%
	3	（理療科生を持つ保護者様のみお答えください） 理療科では、地域の方々への臨床実習をとおし、実技力の向上を図るとともに国家試験の合格へ向けて十分に指導していますか。	56%	44%			100%	0%
行かせたい学校	1	学校は、触れる・確かめるなどの実際の体験を大切にした活動を積極的に取り入れ、豊かな人間性を育成していますか。	75%	25%			100%	0%
	2	学校は、児童生徒が、自分自身の健康への関心を高め、適切な自己の健康管理を指導していますか。	76%	24%				
	3	学校は、給食等を通じた食育を積極的に行い、保護者や児童生徒の食への関心と理解に努めていますか。	52%	43%	5%		95%	5%
	4	（寄宿舎生を持つ保護者様のみお答えください）寄宿舎では、指導員と保護者の連携を図り、寄宿舎生の生活を充実させ生徒児童の自立に向けた生活能力の向上のために適切な指導していますか。	60%	40%			100%	0%
頼りたい学校	1	学校に設置されている地域支援センターの役割を全県下で積極的に推進し、視覚障がいを有する方とその家族を支援していますか。	53%	42%	5%		95%	5%
	2	学校または各学部は、他校の児童生徒との交流（スカイプ交流等も含む）や共同学習を充実させ、お互いが学びあう教育活動を行っていますか。	53%	37%	10%		90%	10%
	3	学校は、啓発活動（点字ブロックキャンペーン等も含む）を推進し、視覚支援学校の教育活動の理解・啓発を積極的に行っていますか。	60%	30%	10%		90%	10%

A：よく当てはまる　B：だいたい当てはまる　C：あまりあてはまらない　D：まったくあてはまらない

○分析

【行きたい学校：一人ひとりの自己実現を図るために必要な学力の向上を目指し、障がいの特性等を配慮した「わかる授業」の実践】

学校経営・運営ビジョンにおいて、1つ目の柱、児童生徒が「行きたい学校」を目指し、見え方や障がいの特性に配慮して興味関心を持たせ、進路実現に向けての確かな学力向上を図る支援については、A並びにBの評価として76%と24%という高い評価を得ました。このことから、児童生徒の教育的ニーズに対し、きめ細かな指導をすることで十分な理解を得られたと考えられます。また、コンクールについては、小中学部は積極的に参加し、それぞれ優秀な成績を修めることができました。しかし、コロナ禍で福島県特別支援学校スポーツ大会や東北地区盲学校文化体育大会など各種大会が中止となったこともあり、質問項目2の評価にCがみられたものと思われます。

【行かせたい学校：発達段階や障がいの状況に応じて、健康で安全な生活を営む姿勢の育成と家庭と協力しながら自立に向けた能力の向上】

2つ目の柱である、保護者が「行かせたい学校」を目指し、まず触れる、確かめるなど実際の体験を大切にした活動を積極的に取り入れた指導を行い豊かな人間性の育成の面と、児童生徒の健康管理に関しては、特にコロナ感染防止に努め、おおむね高評価を得ました。また、児童生徒の給食を通じた食育については、昼食において教員が同じ給食を摂っていないことに対し危惧する意見がみられ。評価Cが1名おられました。

【頼りたい学校：地域との協働を重視し、学校のみならず様々な団体等との交流及び共同学習を行い、積極的な理解啓発活動の推進】

3つ目の柱である視覚障がい教育の専門機関として、皆様から「頼りたい学校」を目指し教育実践をしております。こうした中で、今年度はコロナ禍の影響もあり、地域支援センターの活動や他校との交流、視覚支援学校の啓発活動について大きく制約を受けました。こうしたこともあり、アンケートにおいても質問横目1から3において、C評価がみられました。今後、オンラインなどを積極的に取り入れ、交流活動や広報・啓発の方法について工夫してまいりたいと思います。